

新発見!かごしまの遺跡 2012

～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～

2012.6.23～2012.9.17

■ お問い合わせ

鹿児島県上野原縄文の森
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森
1番1号
TEL 0995-48-5701
FAX 0995-48-5704
ホームページ <http://www.jomon-no-mori.jp>
メールアドレス uenohara@jomon-no-mori.jp

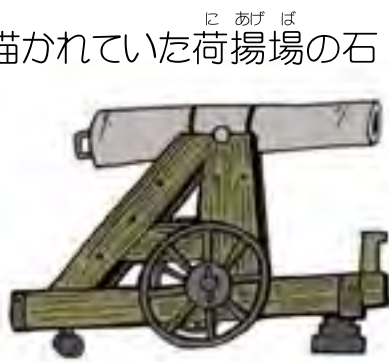
平成23年度、埋蔵文化財センターでは、県内8遺跡で発掘調査を行い、10遺跡の報告書を作成しました。平安時代の文字や各時代のお墓など、注目される発見が多数ありました。

今回は、市町村教育委員会が担当した肝付町鐘付遺跡、志布志市志布志城跡、鹿児島市寺山炭窯跡、三島村平家城跡、喜界町城久遺跡群と、日頃目にする機会の少ない地域の資料も、関係機関の協力を得て展示してあります。発掘によって分かった当時の人々のくらしぶりなどを紹介します。

近代化産業遺産群(鹿児島市)

150年ほど前の出来事で、残された絵図と考古学的成果をつきあわせることによって、当時の状況を復元することができました。

天保山砲台跡では、絵図に描かれていた荷揚場の石置や、大砲の基礎石に、大砲を動かす際にできたと思われる車輪の跡も確認することができました。



天保山砲台 (薩英戦争絵巻) 尚古集成館蔵



大砲がおかれた半円形の基礎 天保山砲台跡

寺山炭窯跡 (鹿児島市)



炭窯本体上から 鹿児島市教育委員会蔵

寺山炭窯跡は、近世の集成館事業を裏で支え、白炭を製炭した史跡です。今回の調査で、炭を窯出した跡を確認することができました。

*白炭とは、主に備長炭などで、鋼のようにかたく、たたき合わせると、金属のような音がします。火力が強く、火もちのよいのが特徴です。

今回の展示データ

遺跡数	展示資料数	展示パネル数
17	329 (一括展示含む)	122

鐘付遺跡 (肝付町)

鐘付遺跡では、ていねいに並べて埋められた深鉢形土器や壺形土器(いずれも縄文時代早期, 7900年前)が出土しました。



壺形土器・深鉢形土器 肝付町教育委員会蔵



台地上で使われた集石遺構 肝付町教育委員会蔵

志布志城跡(志布志市)

志布志城跡は、中世の城跡ですが、縄文時代から近世までの遺構・遺物も出土した複合遺跡です。中でも中国明代(1368～1644年)の華南三彩が出土していることから、志布志湾岸でも中国との交流があったことがうかがえます。



中国明代の華南三彩 志布志市教育委員会蔵

城久遺跡群(喜界町)

城久遺跡群の墓坑には、カムイヤキ、白磁、青磁、玉類が副葬されていました。

墓坑は、234 cm×104 cmと大きく、副葬品も貴重なものが多いため、身分の高い人が葬られていたと考えられます。

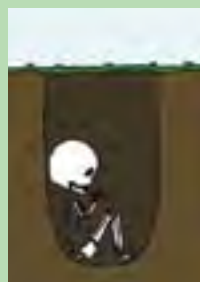


副葬された白磁・青磁・カムイヤキ・玉類 喜界町教育委員会蔵

縄文時代の墓

外島遺跡(出水市)で検出された土坑では、埋葬後に立てたと思われる割れた石皿が見つかりました。埋葬された人が、生前日常的に使っていたものを、故意に割って供えたのかもしれませんが。

墓坑が小さいので、屈葬という膝を強く折り曲げた状態で葬られたと考えられます。



屈葬



外島遺跡から見つかった石皿

南九州の墨書

鹿児島県内では、現在までに2000点を超える墨書土器や刻書土器がみつかります。鹿児島では9世紀から10世紀に多く書かれています。誰でも文字として記録することが出来なかった時代ですので、遺跡で見つかる文字資料は大変貴重なものです。



墨で書かれた墨書土器



刻書土器